調査研究報告

平成８年度・平成９年度文部省科学研究費補助金（国際学術研究）「アジアにおける〈開発と女性〉に関する文化横断的調査研究」調査実施報告

伊藤眞知子（いとうまちこ）

＜キーワード＞

開発と女性　開発とジェンダー　ジェンダー分析　エンパワーメント
所得創出　タイ　ネパール

＜要　旨＞

国立婦人教育会館では、平成６年度より、「開発と女性に関する文化横断的調査研究」を、プロジェクト・チーム（座長：目黒依子上智大学教授）を組織して実施してきた。平成８年度および平成９年度は、この調査研究の一環として、タイおよびネパールへの現地調査を、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）の交付を受けて実施した。平成８年度は、パイロット調査として、質問票による住民女性を対象とする面接調査および中央政府機関等に対するヒアリング調査を行った。

平成９年度調査は、タイおよびネパールにおける女性のエンパワーメントのメカニズムを明らかにすることにより、女性個人のさらなるエンパワーメントの方向を探ることを目的として、ライフコース・アプローチによるジェンダー分析の分析枠組を作成し、ジェンダー分析のためのデータを収集した。調査方法は、住民インタビュー調査質問票を用いた個人面接調査およびヒアリング質問項目にもとづくキー・インフォーマント面接調査とし、調査地は、低収入の女性に向けた収入創出プロジェクトが実施されている地域として、タイ２地域、ネパール３地域を選定した。個人面接調査は、収入創出プロジェクトに参加している女性、参加していない女性および男性を対象として実施し、同時に、これを補強するためのヒアリング調査も行った。現在、収集したデータの分析および報告書の作成を進めており、平成11年3月に報告書刊行の予定である。

1　はじめに

国立婦人教育会館では、平成６年度より、「開発と女性に関する文化横断的調査研究」を、プロジェクト・チーム（座長：目黒依子上智大学教授）を組織して実施してきた。平成８年度および平成９年度は、この調査研究の一環として、タイおよびネパールへの現地調査を、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）の交付を受けて実施した。調査には、プロジェクト・チームに加えて、研究代表者である大野曜国立婦人教育会館長、海外の研究分担者（タイ２名、ネパール１名）ならびに国内の研究協力者（タイ班１名、ネパール班１名）が参加した。

平成８年度は、パイロット調査として、質問票による住民女性を対象とする面接調査を、タイの東北地方コンケン市近郊およびネパールの中西部ポカラ市近郊地域において行い、同時に、ヒアリング調査を中央政府機関、国際援助機関、大学・研究機関、NGO、住民組織等に対して実施し、本調査に向けた情報収集および資料収集に努めた。

ここでは、主に平成９年度調査に関して、調査の設計ならびに実施概要を述べ、調査実施報告としたい。

2　調査の設計

（１）調査の目的

調査研究プロジェクトは、以下を趣旨として掲げてい

る。すなわち、「アジア諸国の女性のおかれている状況は、政治、経済、社会、文化等によりさまざまであり、一国内においても社会階層、雇用形態、居住地域、社会構造等により、価値観やニーズが異なる。本研究では、世代、家族、文化によって異なる女性の状況に配慮したライフコース・アプローチにより、家庭、地域社会における性別役割、労働分担、教育程度等についての男女の比較、女性の開発参加を阻んでいる社会的・慣習的要因、＜開発と女性＞プロジェクトがもたらす女性・男性および地域への影響、社会政策等についてジェンダー分析を行うとともに、女性を男性と同等の開発の担い手としてとらえ、社会的、政治的、経済的状況の変革に主体的に関わりながら自立する力を身につける（エンパワーメント）ための具体的な戦略を構築する」というものである。

この趣旨にもとづき、現地調査においては、タイおよびネパールの女性のエンパワーメントに資すると考えられる諸要因間の関連を実証し、現存する社会システムにおける女性のエンパワーメントのメカニズムを明らかにすることにより、システムそのものの改革の方向性を見出し、女性個人のさらなるエンパワーメントの方向を探ることを目的とした。[目黒　1997 2, MEGURO 1998 4]

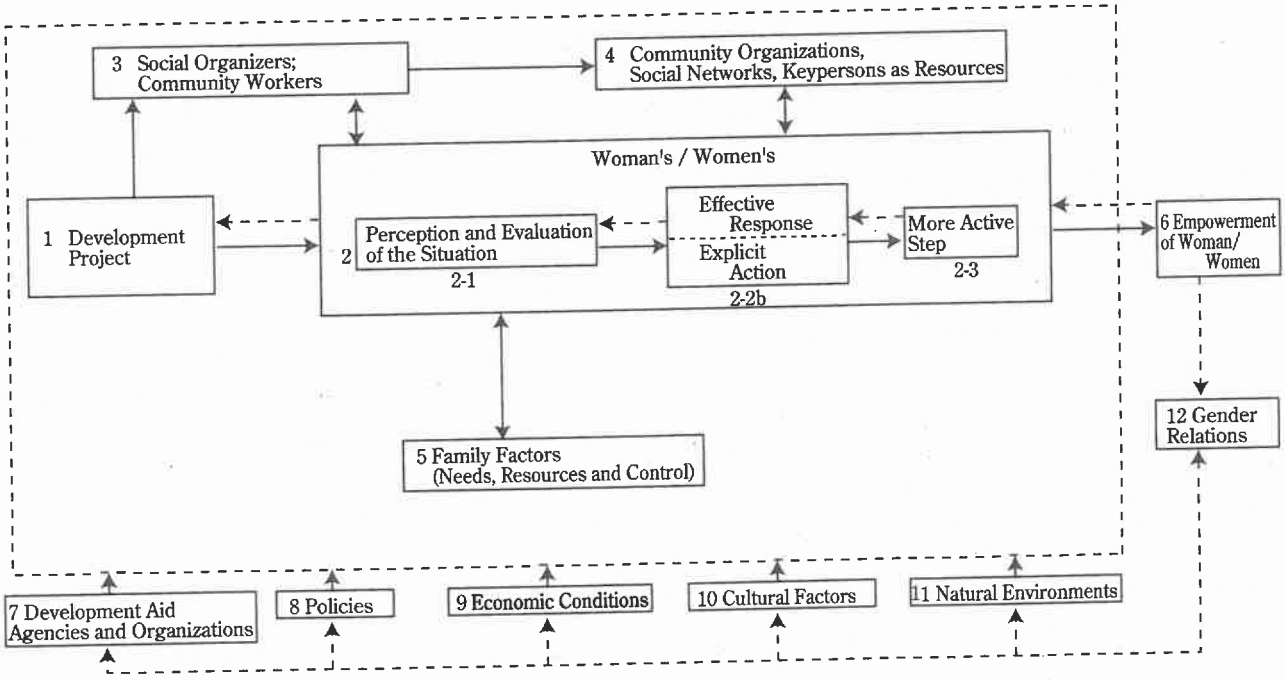
（2） 調査デザイン

女性のエンパワーメントのメカニズムを明らかにするために行うジェンダー分析の分析枠組として、ライフコース・アプローチによる枠組を作成した。ジェンダー分析の枠組においては、個人レベルのジェンダー関係を構造的・文化的脈絡における社会的・歴史的事実としてとらえることが必要であり、個人の軌跡を社会的・歴史的脈絡においてとらえるライフコース・アプローチが有効であると考えられるからである。また、女性個人のエンパワーメントばかりでなく、集合的なレベルでの女性のエンパワーメントも重要であることから、これにも注目し、その両方を分析枠組に含めることにした。[目黒 1997 1, MEGURO 1998 3-4]

この分析枠組は、「開発プロジェクトは、以下のような条件下で、女性のエンパワーメントに資する」という仮説のもとに設定されている（図1参照）。その条件とは、①女性自身が開発プロジェクトによる生活状況の変化を認識し、かつその変化に対応する（要因１，２，６）、②プロジェクトの関係者（個人および組織）が女性たちと目的を共有し関わり合う（要因２，３，６）、③既存および新規の地域組織やネットワーク・個人などが資源として機能する（要因２，３，４，６）、④家族のニーズが女性個人のニーズを上回らない（要因２，５，６）

図 1

Design for Field Research



というものである。矢印は、相互作用の方向を示しており、要因７～１２はマクロ要因として位置づけられている。[目黒　1997 2-4,　MEGURO 1998 3]

（３） 調査方法

①住民インタビュー調査質問票を用いた個人面接調査

②ヒアリング質問項目にもとづくキー・インフォーマント面接調査

（４） 調査対象の選定

①調査地

パイロット調査の結果をふまえ、開発プロジェクトが女性におよぼす影響をより明確に把握するために、低収入の女性に向けて行われている収入創出プロジェクト（income generating project）に焦点を当てることにした。調査地の選定にあたっては、収入創出プロジェクトが展開されている地理的（行政的）な意味でのコミュニティおよび社会文化的なコミュニティ（民族集団、カーストなど）の両方を対象とした。

ａ．タイ

タイ国内で相対的に所得の低い地域であること、また従来の調査実績があることから、東北地方における調査を計画し、以下にあげる都市近郊兼業農村および遠隔地専業農村という対照的な２地域を選定した。

・コンケン県ムアン郡（小規模融資プロジェクト）

・コンケン県プーパーマン郡（ハーブティー製造販売プロジェクト）

ハーブティー生産・販売プロジェクト（タイ）

インタビュー調査風景（タイ）

ｂ．ネパール（３地域）

ネパールの中間山地において低所得で、低いジャート（カースト）に属する人々が居住する地域として、首都カトマンズ近郊農村および中西部ポカラ近郊農村という地理的に離れた地域を選定し、さらにポカラ近郊では、異なる開発援助機関が援助対象としている２地域を選び、あわせて以下の３地域とした。

・ラリトゥプール郡バディケル（竹細工プロジェクト）

・カスキ郡チャパコット（ヤギ飼育プロジェクト）

・カスキ郡カリカ（ヤギ飼育プロジェクト）

②対象者

ａ．住民インタビュー調査質問票を用いた個人面接調査

・参加女性：上記のプロジェクトに参加している女性に対しては悉皆調査を実施した。

・非参加女性：同じ地域内に居住し、現在プロジェクトに参加していない女性を、参加経験のある者も含めて対象にした。

・男性：同じ地域内に居住し、世帯内に参加女性のいる者、いない者の両方を含めた。

ｂ．ヒアリング質問項目にもとづくキー・インフォーマント面接調査

女性グループのリーダー、村長、コミュニティの役員、コミュニティ・レベルの開発連活動担当者、学校の教員等を対象とした。

３　調査の実施概要

（１）調査期間

①タイ調査　　平成9年10月5日～22日

②ネパール調査　（Ａ班）平成9年9月20日～10月4日

　　（Ｂ班）平成9年10月16日～30日

（２） 調査内容

①個人面接調査

調査の実施にあたっては、両国の研究分担者が指導している学生等がインタビュアーとなり、現地語により面接した。インタビュアーには、事前に質問票の内容や質問方法に関するオリエンテーションの場を設け、トレーニングを行った。使用した質問票のうち、参加女性向けには、プロジェクトの活動、結婚、家族／世帯、生産活動、日常的な生活・作業、現金収入、進歩・発展・開発などに関する質問項目が盛り込まれている。非参加女性および男性向けには、結婚、家族／世帯に関する質問項目は省き、他は比較が可能になるよう、参加女性と共通の質問項目とした。タイ語版とネパール語版の質問票は、基本的には同じ内容としたが、それぞれの現地の状況に

ヤギ飼育プロジェクト（ネパール）

インタビュー調査風景（ネパール）

合うよう、部分的に変更を加えたところもある。

タイでは、２地域あわせて、参加女性99票、非参加女性39票、男性36票、合計174票の有効回答があり、ネパールでは、3地域あわせて、参加女性72票、非参加女性35票、男性35票、合計142票の有効回答を得た。

②キー・インフォーマント面接調査

インタビュー調査の内容を補強し、追加情報を得るために、通訳（現地語←→英語）を介したインタビューを、タイ・ネパール共通の質問項目リストにもとづいて行った。質問項目は、村の外での経験、プロジェクトへの関わり、進歩・発展・開発（個人面接調査質問票と共通）などに関するもので、タイでは38名、ネパールでは19名に面接調査を実施した。

4　おわりに

タイにおいても、ネパールにおいても、いずれも短期間の調査ではあったものの、現地の方々のさまざまな協力を得て、非常に多くの貴重なデータを収集することができた。現在、これらのデータをもとに、調査研究プロジェクトの報告書を作成中であり、平成11年3月刊行の予定である。詳細については、この報告書をご覧いただきたい。

（国立婦人教育会館事業課研究員）

参考・引用文献

大野曜研究代表　1997　『平成８年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書　アジアにおける＜開発と女性＞に関する文化横断的調査研究』

大野曜研究代表　1998　『平成９年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書　アジアにおける＜開発と女性＞に関する文化横断的調査研究』

目黒依子　1997　「本研究の問題意識と方法」大野曜研究代表 1997 pp.1-4

MEGURO, Yoriko 1998 Objectives, Design and Method, 大野曜研究代表 1998 pp.1-5